

# メロン果実汚斑細菌病に対する 育苗期の薬剤防除体系

メロン果実汚斑細菌病は、種子伝染性の病害であり、その病原細菌 (*Acidovorax avenae* subsp. *citrulli*、以下「Aac」) は接ぎ木後の養生中などの高温多湿条件下で増殖・発病します。本病原細菌の本ほへの持ち込みを防ぐには、カスガマイシン・銅水和剤 (以下「KC 剤」) を接ぎ木前日、10 日後、17 日後に計 3 回散布する薬剤防除体系が有効です。

## ● 果実汚斑細菌病の特徴 ●

本病は、植物防疫法により国内への侵入が警戒されている病害で、本県では平成 17 年にメロンでの発生が認められました。本病は、メロンの各部位に水浸状の病斑等を生じ、果実では病勢の進展により軟化腐敗を伴う裂果を生ずる場合があります。



写真1 メロン果実汚斑細菌病の病徴

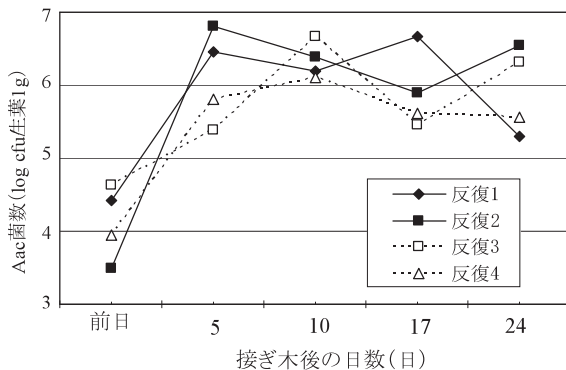


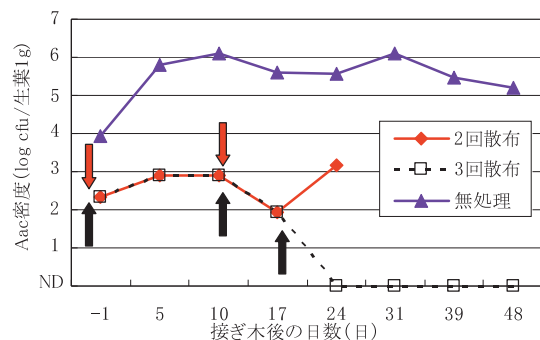
図1 育苗時におけるメロン無病徴保菌苗上の Aac 密度の推移

## ● 育苗期における増殖の推移 ●

接ぎ木前のメロン苗に Aac を噴霧接種すると、養生管理中に発病が助長されます。また、無病徴であっても、子葉上において Aac は 10 ~ 1,000 倍以上に増殖します。したがって、育苗期では接ぎ木前からの防除が重要となります。

## ● 薬剤防除体系 ●

接ぎ木前に Aac を噴霧接種したメロン苗に、KC 剤 1,000 倍希釈液を接ぎ木前日に散布することにより養生管理中の増殖は抑制され、さらに 10 日後、17 日後にも散布することで、最終的に Aac は検出限界以下となります。したがって、本防除体系により Aac の本ほへの持ち込みを最小限にすることができます。



KC 剤の散布日は赤矢印が 2 回散布区、黒が 3 回散布区を示す。

図2 薬剤防除体系における無病徴保菌苗上での Aac 密度の推移